令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　　中央区

学 校 名　　南大江小学校

学校長名　　植田　隆義

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和７年４月17日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数
・理科

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・南大江小学校では、第６学年　１５４名

学校名　南大江小学校

令和７年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

令和７年度は国語科と算数科と理科の３教科について調査を行った。
国語科の平均正答率は７１％で全国平均を4.2ポイント上回った。正答数別（全問題数14問）の分布状況は、正答数12問を頂点として山なりに分布している。（国語科の標準偏差は全国の3.0に対して、本校は3.1）
算数科の平均正答率は70％で全国平均を12ポイント上回った。正答数別（全問題数16問）の分布状況は、正答数13問を頂点とし山なりに分布している。（算数科の標準偏差は全国の4.0に対して本校は4.0）
理科の平均正答率は62％で全国平均を4.9ポイント上回った。正答数別（全問題数17問）の分布状況は、正答数13問を頂点とし山なりに分布している。（理科の標準偏差は全国の3.8に対して本校は3.9）
国語科、算数科、理科ともに標準偏差が全国平均と同じか、本校がやや高くなっていることが分かる。この乖離はまだ大きくないものの、二極分化の傾向が伺える。国語科、算数科ともに標準偏差の値が全国平均を下回っており、得点の分布状況が二極分化することなく比較的まとまっていることがうかがえる。また、無回答率は国語科では全国平均の4.2に対して本校は3.3、算数科では全国平均の3.4に対して1.7と比較的低いことが分かっている。平均無回答率は全ての教科で全国平均を下回っており、児童らが粘り強く調査に取り組んでいることが分かる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］
国語科だけの傾向ではないが、どの教科も全国平均正答率を上回っているものの、標準偏差が全国平均と同じか回っており、各教科を得意とするものと、苦手とするものの乖離が進んでいる状況がある。分野別では読解に関わる平均正答率が特に高く、本校児童の「読書は好きですか」との質問において肯定的回答が十分に高いことが影響していると考えられる。
［算数］
算数科においては特に全国平均を大きく上回っている。分野別の得点率では特に「図形」分野での正答率が高い。
［理科］
理科においても結果の概要は他の教科と同様に、全国平均を上回っている。また特筆に値することは他の教科と比べても無回答率が低く、特に理科において問題にあきらめず取り組んでいる様子がうかがえる。

今年度の本校の課題としては標準偏差が大阪市や全国平均を上回りつつあることが挙げられる。本校が所属する第３教育ブロックが掲げる「誰一人取り残さない学力の向上」という目標を数値化した基準の一つが標準偏差に表れると考えており、この点には十分留意しつつ今後の指導に生かしていく必要があると考えている。

質問調査より

今回の児童質問紙調査では教育の世界でも重要視されているウェルビーイング（wel being)に関わる質問を特に取り上げている。ウェルビーイングは「心も体も健康で、自分らしく幸せに生きること」などと一般的には解されている。質問項目「学校に行くのは楽しいと思いますか」、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」において本校では、全国平均や大阪市平均を上回っており、児童らが比較的安定した精神状況で学校の内外を問わず生活できていることが伺える。ただし、教職員の児童らへの関わりに関する質問項目「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」については、肯定的回答が全国平均や大阪市平均を下回っている。

学校質問紙調査では主にICT機器の活用に関わる項目をピックアップしている。本校では機器の活用そのもは進んでいるものの、教師、児童間での活用が主であり、児童間や家庭での活用についてはまだ十分ではない様子が伺える。

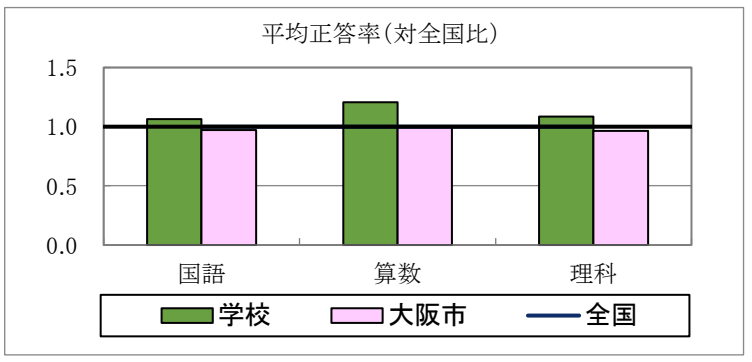
今後の取組(アクションプラン)

今回の調査結果から、本校の傾向、状況を踏まえて以下の点について特に力を入れて取り組んでいきたい。本校の児童らのウェルビーイングは比較的高いといえるものの、教職員の児童に対する関りが十分ではないと考えられる質問項目の結果も出ている。今後は、教職員らも心身ともに余裕をもって、児童らに丁寧に関わっていく姿勢について改善していく必要性を感じている。また、この取り組みは各教科の結果からもその重要性が高い。標準偏差が拡大傾向にあることは、換言すれば得点分布の乖離であり、「誰一人取り残さない学力の向上」の観点からは、児童一人一人へのよりきめ細かな指導の必要性が高いことも示している。教職員の働き方改革は、教職員自身だけのものではなく、児童ら一人一人への丁寧な指導へと還元していくことを目指して、本校の教育活動を進めていきたい。

【 全体の概要 】

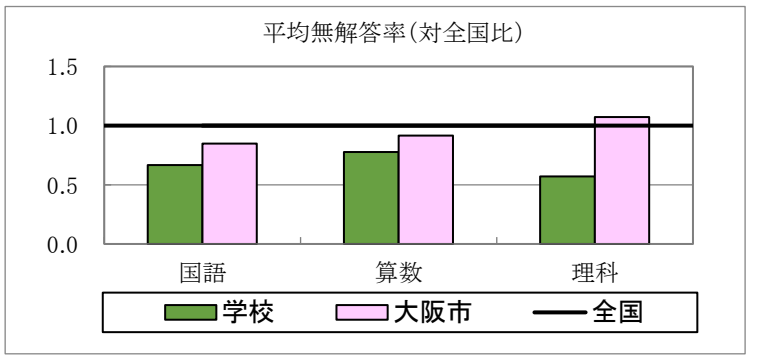
平均正答率（%）

	国語	算数	理科
学校	71	70	62
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



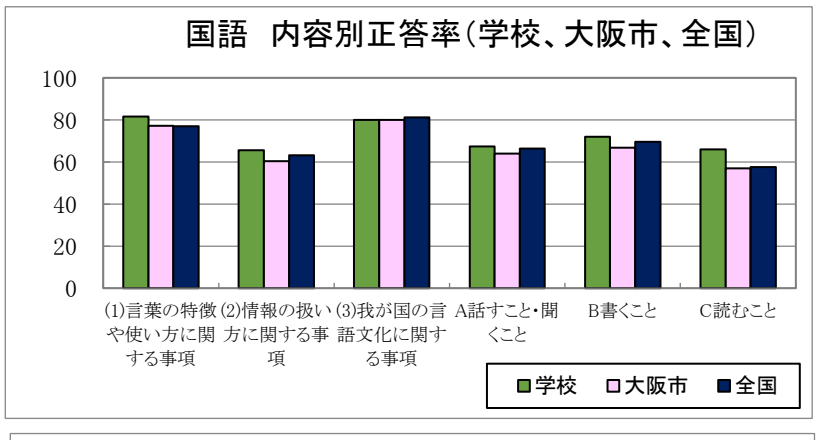
平均無解答率（%）

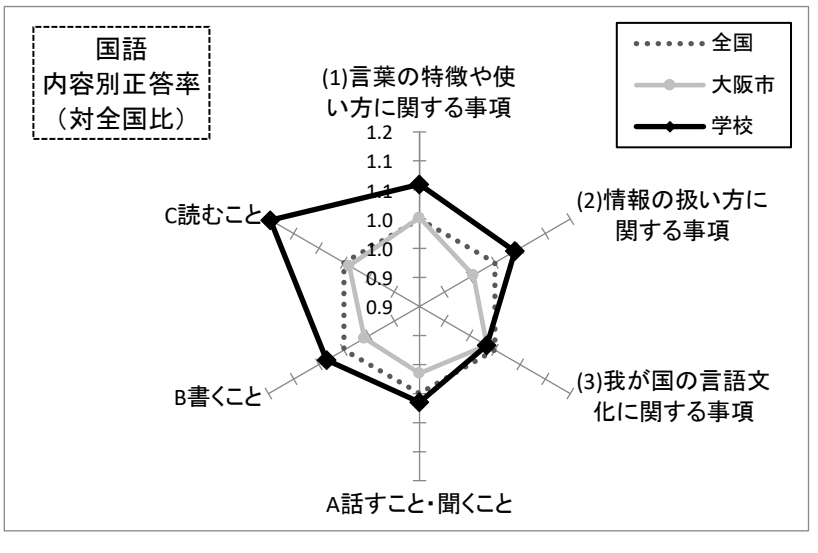
	国語	算数	理科
学校	2.2	2.8	1.6
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



【 国 語 】

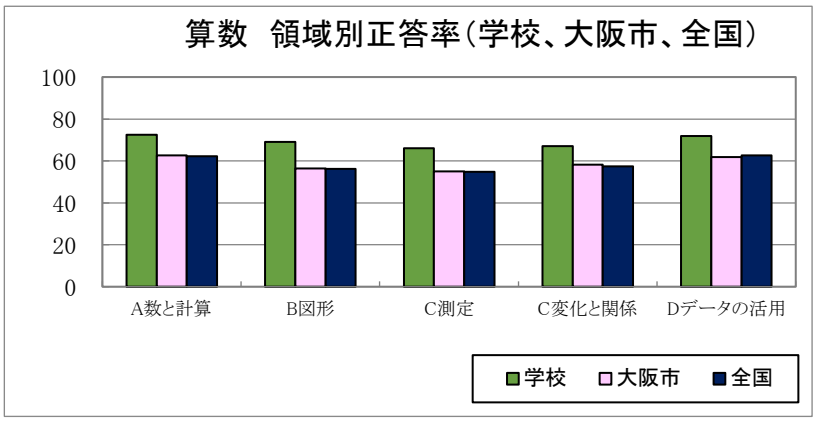
学習指導要領の内容	対象設問数（問）	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	81.5	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	65.6	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	79.9	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	67.3	64.0	66.3
B 書くこと	3	71.9	66.7	69.5
C 読むこと	4	65.9	56.9	57.5

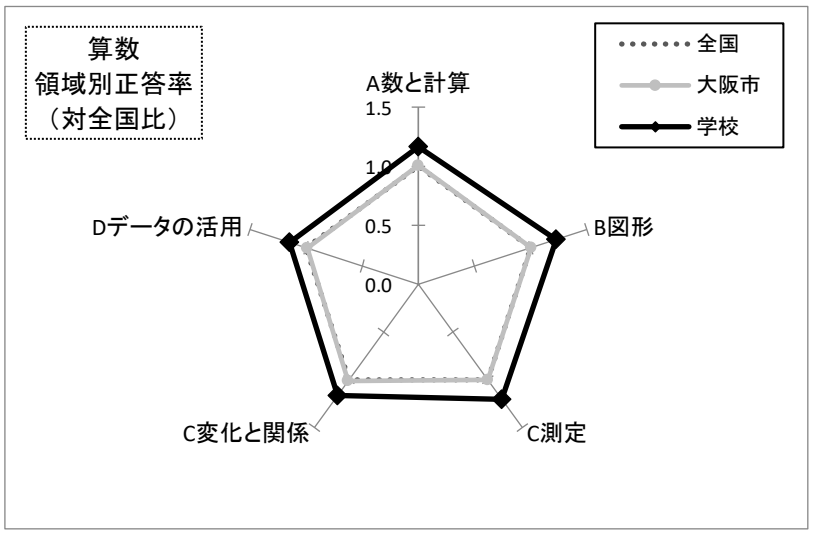




【 算 数 】

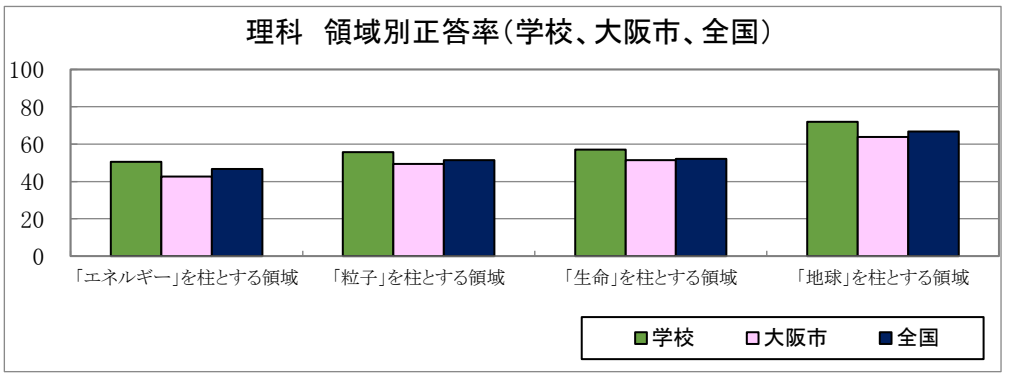
学習指導要領の領域	対象設問数（問）	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	72.5	62.7	62.3
B 図形	4	69.0	56.4	56.2
C 測定	2	66.0	54.9	54.8
C 変化と関係	3	67.0	58.2	57.5
D データの活用	5	71.8	61.9	62.6

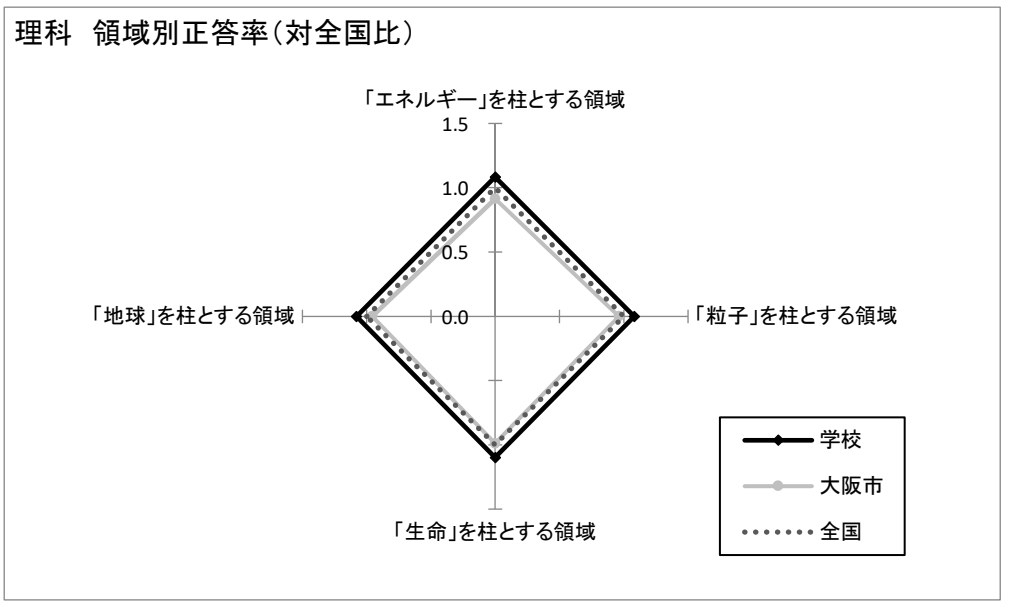




【 理科 】

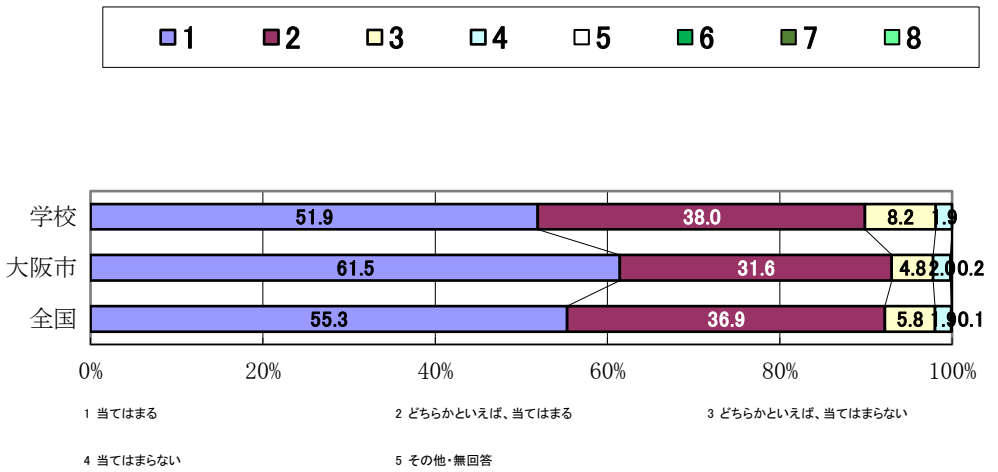
学習指導要領の区分・領域		対象設問数(問)	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	50.6	42.7	46.7
	「粒子」を柱とする領域	6	55.6	49.5	51.4
B区分	「生命」を柱とする領域	4	57.1	51.4	52.0
	「地球」を柱とする領域	6	72.0	63.8	66.7



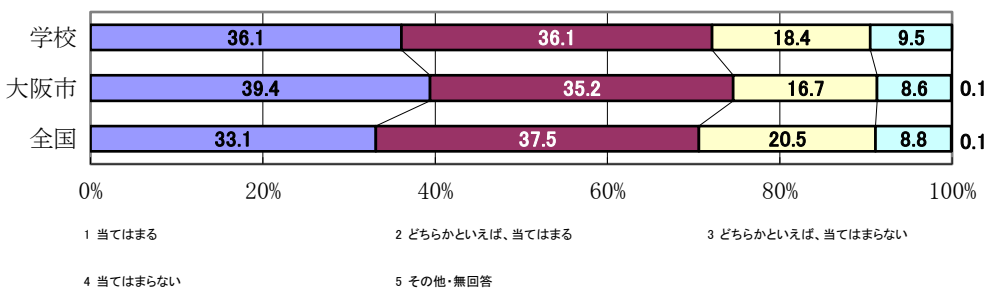


児童質問より

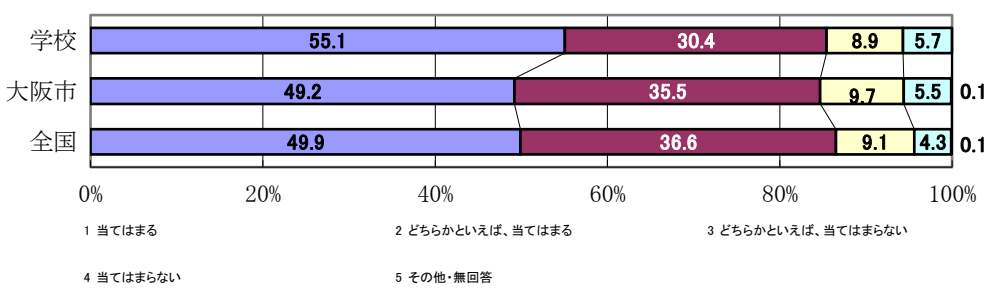
質問番号	質問事項
6	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



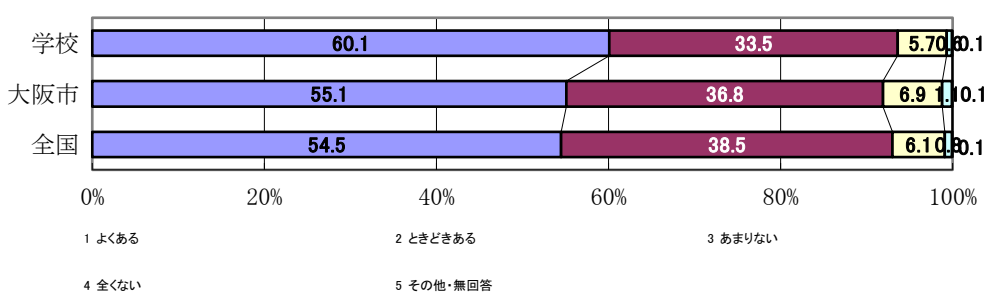
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



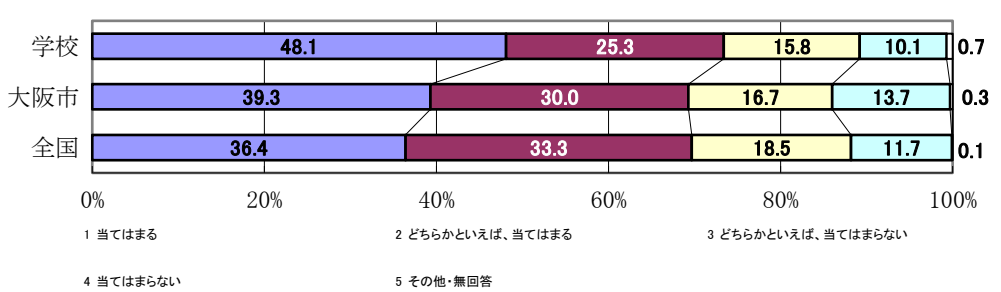
12	学校に行くのは楽しいと思いますか



15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



24	読書は好きですか



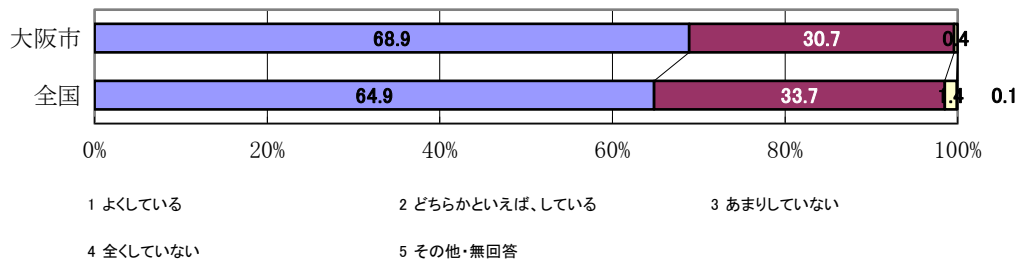
学校質問より

質問番号
質問事項

18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

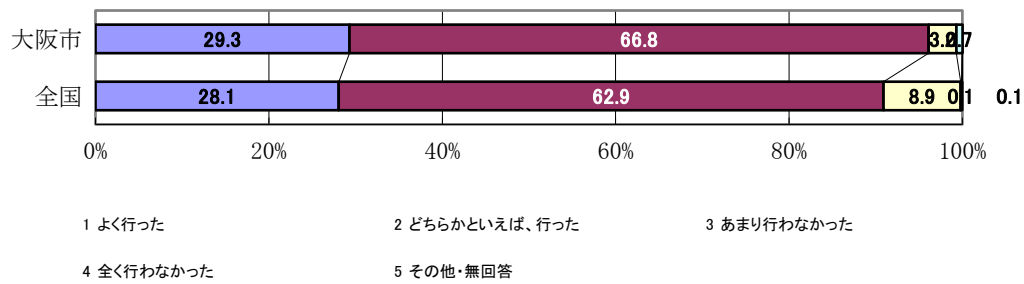
学校 「よくしている」を選択



30

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

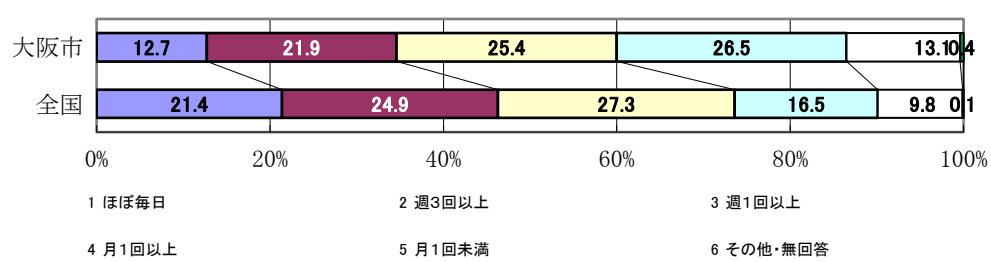
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



62

調査対象学年の児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

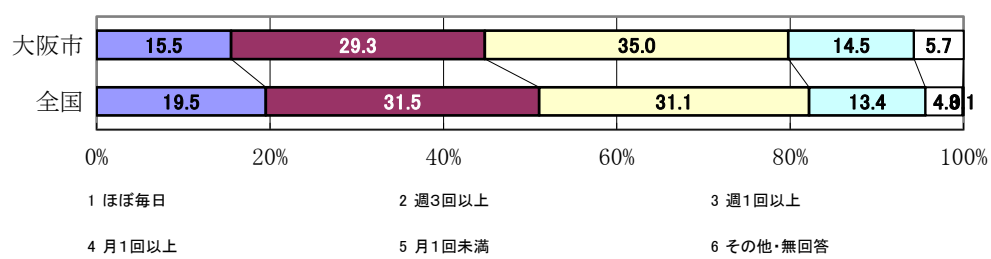
学校 「週1回以上」を選択



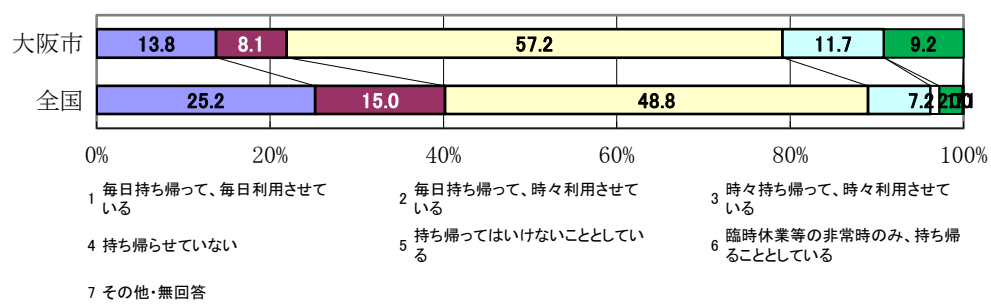
63

調査対象学年の児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「ほぼ毎日」を選択



66

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

学校 「時々持ち帰って、時々利用させている」を選択